

基幹化学品事業

事業概要

各種産業や社会インフラに必要な化学品を取り扱っています。様々な産業分野に原料となる製品を供給するとともに、グループ内の事業、特に高付加価値製品の原料を供給する機能も担っています。

● 無機化学品事業

電解関連製品^{※1}と、硫酸・アグロ製品^{※2}。

※1 カセイソーダ、カセイカリ、次亜塩素酸ソーダ、塩酸、塩素、亜硫酸ソーダ、酸化銅など。

※2 硫酸、重炭酸カリなど。

● アクリルモノマー事業

アクリル製品^{※1}と、化成品^{※2}。

※1 アクリル酸、アクリル酸エステルなど。

※2 ATBS（アクリルアミドターシャールブチルスルホン酸）、エチレンカーボネートなど。

● 工業用ガス事業

酸素、窒素、アルゴンなど多種にわたる産業ガス。



執行役員
基幹化学品事業部長
並木 憲二

基幹化学品事業は、産業に不可欠な基礎化学品を安定的に生産・供給していくことが使命ですが、産業の構造変化を見極め、事業を強化・再編していくことも重要です。顧客やパートナーからの要望に応えるほか、原燃料や製法の転換、リサイクルや新規エネルギー技術の開発など、社会のニーズに貢献する事業運営によって将来的な競争力強化に努めていきます。

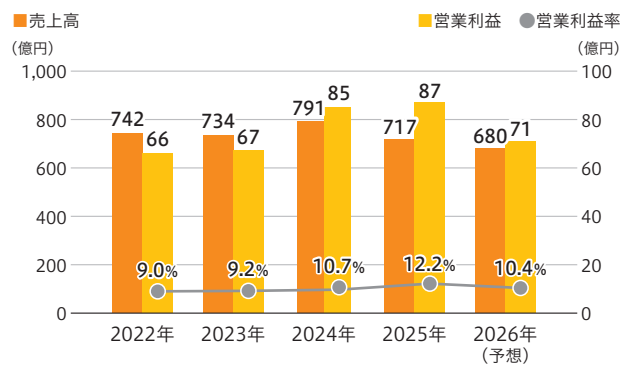
2025年度 レビュー

国内では石油化学など多くの基礎化学品で需要低迷や事業再編がみられるなか、電解関連製品は安定した底堅い需要に支えられ、当社の無機化学品事業も堅調に推移しました。今後も安定供給を果たすため、中長期計画に沿って設備増強、更新、保全を進めています。

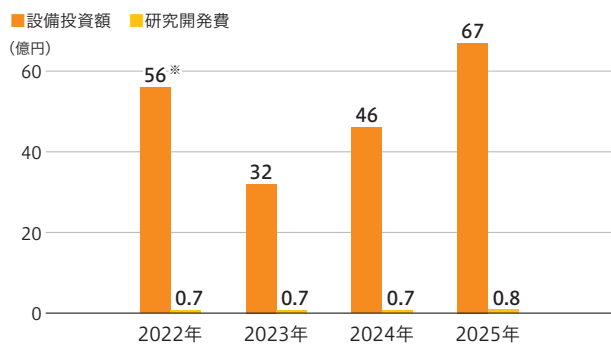
事業方針として、環境・SDGsへの貢献を重要視しています。エネルギー多消費設備である電解プラントについて、高効率・省エネ設備への更新工事が進行中です。このほか、環境貢献事業である「閉鎖循環式陸上養殖」の大規模プロジェクトに参画し、各種無機薬品の供給準備を進めています。また、水道水浄化用の高品位な薬剤の需要が増加しており、これに対応した設備増強を完了しました。

なお、当社グループのポートフォリオ強化戦略の一環として、2025年12月をもって、川崎工場の塩化ビニル樹脂の受託製造を終了いたしました。

本セグメントの売上高・営業利益推移



設備投資額・研究開発費



※ 川崎工場 工場用土地取得費用115億円を除く

競争優位性・課題・成長の機会

	無機化学品事業	アクリルモノマー事業	工業用ガス事業
競争優位性	・東・中・西日本に製造拠点を有し、地産地消とBCPが可能 ・JWWA特級次亜塩素酸ソーダを全国展開	・高効率、高品質を両立する生産体制 ・ATBSの重合技術による品質優位性	東海・北陸地区に地区最大の生産拠点を有し、グループ内輸送会社を活用した安定供給体制を構築
課題	最新技術や環境投資を3拠点で横展開するために、計画的な実行と投資が必要	汎用品市場で海外勢との競争が高まり、差別化やコスト低減による競争力強化が必要	原燃料・労務費等のコストアップや関税政策等による需要家の国内製造拠点の縮小
成長の機会	電子材料向けや環境配慮型製品の需要が高まり、当社が持つ高純度化技術を応用した製品の展開が加速	環境配慮型製品の需要が高まり、バイオマス・リサイクル原料由来製品の展開が加速	省エネ・カーボンニュートラルに向けた顧客製造プロセスの改善・更新

中長期的な成長戦略

無機化学品事業

電解事業は、物流効率化の必然として市場がブロック化するなか、設備更新・増強や輸送体制の再整備を行い、安定供給体制を強化するとともに、地域の顧客・パートナーとの協業、共創により、新製品の開発や新事業の起業を進めます。また、高性能省電力設備への転換と再生エネルギー使用比率を高め、CO₂排出削減を推進します。

硫酸事業は、需要拡大が見込まれる電子材料向けなどの新規需要を取り込むことで安定した操業を確保し、製造時に併産されるスチームを活用し、製造拠点のCO₂排出量削減に貢献していきます。

アクリルモノマー事業

アクリル事業は、需給変動に柔軟に対応できる操業体制の確立とたゆまぬコスト低減を進め、競争力の維持拡大に努めていきます。また、バイオマス・リサイクル由来原料の活用を進め、カーボンニュートラル社会の実現へ貢献していきます。2025年にアクリル酸のISCC PLUS認証を取得しました。今後、アクリル酸エステル、チェーン下流のポリマー製品などへの展開と、ATBSでは世界初となる認証取得で差別化を図っていきます。

工業用ガス事業

中部・北陸地区に製造拠点を有し、地場産業に密着した事業活動を通じて自動車を始めとした全国有数の「ものづくり圏」への安定供給に努めていきます。顧客のカーボンニュートラルへの取組みにフォーカスし、ガスアプリケーションの探索・提案に注力していきます。また、当地区では数少ない高圧ガスローリー容器整備場を保有しており、設備点検を含めたユーザーフォローを強化し、製品貯槽の液面監視システム導入、検査にかかる環境負荷の低減、製造・配送など環境に配慮した事業運営を目指します。

FOCUS TOPICS

高品位次亜塩素酸ソーダの製造能力を増強

横浜工場の「日本水道協会（JWWA）特級グレード次亜塩素酸ソーダ」（特級次亜）の設備増強が完了し、本格稼働を開始しました。特級次亜は不純分を低減した高品位な次亜塩素酸ソーダで、安全な水の提供に欠かせない素材です。首都圏の水需要を支える存在として、供給体制を強化し、社会の安心・安全に貢献していきます。



浄水場（イメージ）

電解工場の更新および3工場操業統合管理システムの導入

名古屋工場の電解プラント更新に着工し、2026年の稼働開始を予定しています。更新にあたり高効率・省エネ設備を導入するとともに、併産される水素の有効活用にも取り組み、より一層のエネルギー効率向上とCO₂排出量削減を目指します。

また、横浜・名古屋・徳島の電解3工場の操業データを統合管理するシステムを導入します。複数のプラントに存在する情報を統合して管理することで、安定操業や効率化など、より一層の合理化と付加価値創出を目指します。



統合管理システム